

小学校だより

2024年
3学期号

2024.3.14

Vol.
155

ジェンダー平等について

校長 相川 保敏

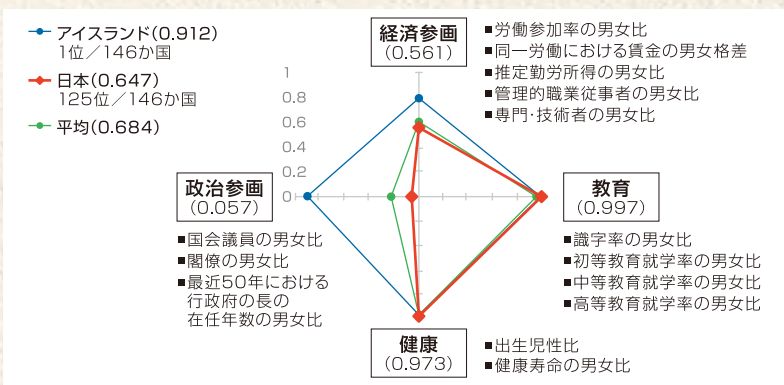
皆様は、NHKの大河ドラマ「光る君へ」をご覧になっているでしょうか。昨年は「徳川家康」が主人公でしたが、今年は源氏物語の作者「紫式部」が主人公になっています。平安時代の女性が主人公になるのは、大河ドラマでは初めてだそうです。ドラマでは紫式部とともに藤原道長がキーパーソンとして登場しています。道長の父、藤原兼家が娘の詮子（せんし）を円融天皇に入内（いじゅだい）させ、二人の間に生まれた男児を天皇にすべく暗躍します。自分の娘に天皇の子を産ませ、外祖父として権力を握っていくわけです。のちに道長は、自分の娘の影（かげ）（しょうし）を一条天皇、妍（けん）（けん）を三条天皇、威（い）（い）を後一条天皇、嬪（ひん）（ひん）を後朱雀天皇の中宮（ちゆうぐう）にし、天皇の外祖父として権力を我がものとしていきます。息子たちは政治の表舞台で損政（そんせい）といった最高位の役職に就かせ、一族に権力を集中させます。貴族社会では、子どもたちの性的な役割分担が明確になっていったと言えます。

小学校六年生で日本の歴史を学びますが、文部科学省が示す小学校学習指導要領には、歴史上で取り上げる人物が例示されています。卑弥呼、聖徳太子、小野妹子、中大兄皇子…と時代順に示され、…東郷平八郎、小村寿太郎、野口英世の四十二名となっています。の中には、前述の「紫式部」「藤原道長」も入っています。では、四十二名のうち女性は何名いるでしょうか。実は、三名しかいません。卑弥呼

呼「紫式部」「清少納言」だけです。ご存じのように「卑弥呼」は邪馬台国の女王、「紫式部」は源氏物語の作者、「清少納言」は枕草子の作者です。三名のうち二名が平安時代の人です。紫式部は道長の娘で一条天皇の中宮影（かげ）（しょうし）の侍女として、清少納言は道長の兄道隆の娘で一条天皇の中宮定子（ていし）の侍女として仕えていました。どちらも一条天皇の中宮にそれぞれ仕えていたことから、リアルに同時代を生きていたことになり、世界に誇る文学作品がこの時代に作成された背景には、日常の言語を書き表しやすい「ひらがな」を主に女性が使っていたことがあげられます。もう一つは才能ある女性に宮廷生活に入って活躍する機会が与えられたことが考えられます。つまり、藤原氏は天皇の外戚として地位を確保するために自分の娘を入内させたわけですが、その身分を確実にするため才能のある女性を選んで侍女としました。宮中に自らの才能を発揮できる環境が作られたことも大きいのではないかと思います。一方で、公務の表舞台は律令制の厳格な枠組みの中で男性が活躍する場となっています。

ところで、世界経済フォーラムが「ジェンダー・ギャップ指数」を毎年公表しています。ジェンダー・ギャップとは男女間格差という意味で、「政治」「経済」「教育」「健康」の四つの分野でジェンダー・ギャップ指数と呼ばれる数値を算出し、それを総合して国ごとの男女平等を評価しています。二〇二三年の日本は一四六か国中一二五位でした（図参照）。数値が一に近いくほど、男女平等が進んでいることになり、日本を見ると、特に政治参画や経済

参画が低くなっています。政治参画は国会議員や閣僚、自治体の首長などの割合で、経済参画は同種業務の給与や管理職数などの割合で評価されます。日本は世界に比べてこの二分野で大きく後れを取っており、社会や経済を動かしていく女性が少ないということがわかります。国としては是正を図ろうと長年にわたって取り組みを進めてきましたが、二〇二二年の二一六位よりも順位が下がってしまいました。日本のジェンダーギャップはなかなか改善できない、根深いものがあります。



特集

絵日記

P.2
P.3

委員会報告

P.4

学期の行事

P.5

学年トピックス

P.6
P.17

PTA

P.18
P.19

三学期の思い出

P.20

P.6
P.17

P.18
P.19

単純には結びつかないかもしれませんが、平安時代の男女の明確な役割分担が、今日のジェンダーギャップにも影響を与えているのではないかと考えます。多くの国々でも、ジェンダーギャップは存在していますが、日本はその解消がなかなか進まない社会的環境にある

男女平等参画局

ジェンダーギャップ指数「より

- ボール運動で速い球を投げるのが得意なのは、男子であると思う。
- グループのリーダーは、男子の方が向いていると思う。
- 発言したり、見本を見せてくれたりするの、男子の方が得意であると思う。
- iPadを使ってプレゼンの資料を作るの、男子の方が得意であると思う。
- 元氣よく手を挙げて発言するのは、男子の方が得意であると思う。
- 放課の時間以外で元氣よく遊ぶのは、男子の方が得意であると思う。

といった項目で、女子校は共学校に比べ値が半分以下になっています。女子校の方が「男子の方が優位である」という考え方が形成されにくいと言えます。性差にとらわれず、自分らしく主体的に取り組んでいく意識を育みやすいと言えます。こうした意識を育んでいくことで、日本が立ち遅れている政治面や経済面でもジェンダー平等が達成されやすくなるのではないかと期待します。